

令和元年度
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習
及び
広島派遣事業
報告書

令和元年 12 月
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会



東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 尾崎保夫



戦後70年目の節目の年に、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け、東村山市と連携して始めた「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」も今年で5年目を迎えました。お陰さまで今年も多くの小・中学生にお申込みをいただき、結果、両市より小学生9名、中学生11名の参加をもって実施することとなりました。

参加した小・中学生たちは、まず、自分たちが住む東大和市や東村山市の施設等を巡り、両市の戦争の歴史について学習をしました。東大和市では、都立東大和南公園にある「旧日立航空機株式会社変電所」を見学しました。この変電所は、昭和13年、軍需工場内に電気を減圧して送る施設として東大和市（当時の北多摩郡大和村）に建てられたものですが、昭和20年に受けた空襲による弾痕を残しながらも奇跡的に生き残り、今もなお戦災建造物として戦争の恐ろしさを静かに訴え続けています。これまで変電所を間近に見る機会があまりなかった小・中学生たちは、戦争の傷跡を直接見たことで、自分たちが住む身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学んでくれたことと思います。

その後、8月には広島市を訪問し、原子爆弾により、一瞬にして破壊された街の惨状の記録、そして人々の努力によりいかにして広島市が復興し、現在の姿になったのかを学びました。また、実際に被爆した体験のあるかたから当時の様子や気持ちを聞きました。8月6日には平和記念式典に参列し、同日午後には平和への祈りを込めて「とうろう流し」を行いました。

小・中学生たちは、この事業を通じて、戦争により起きた悲劇や被害がどのようなものかを知り、このような惨状を生み出す戦争を二度と起こしてはならないという想いを強く心に刻んだことと思います。また、平和な世の中は決して当たり前のもではなく、戦争の記憶を通じて平和の大切さを伝えていくことが、重要であることも学んでくれたことと思います。実際に、広島派遣後に実施しました報告会におきましては、小・中学生たちの平和に対する熱い想いを聞くことができ、今回もこの事業が大変意義深いものであったと感じております。

戦後74年が過ぎ、戦争を体験されたかたの高齢化が進んでおります。これからも、小・中学生の皆さんには、この事業で学んだことをさらに次の世代に伝えていっていただきたいと思います。そして、戦争の悲惨さ、平和の大切さが未来に語り継がれ、世界の恒久平和が実現することを願っております。

東大和市は、平成2年に「平和都市宣言」を行い、「平和市民のつどい」等、これまでも戦争・平和に関連する取組を行ってまいりました。これからも、このような取組を通じて、平和の尊さを伝えてまいります。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

令和元年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長
東村山市長 **渡部 尚**



人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下されてから74年が過ぎました。原子爆弾によって、多くの尊い命が一瞬のうちに奪われ、辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今なお消えることなく人々を苦しめています。

日本は唯一の被爆国であり、これらの事実を決して忘れてはなりません。核兵器による惨禍を体験した私たちは、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、さらに平和の大切さを決して忘れることなく、世界中に伝えていかななくてはなりません。

東村山市は、昭和39年に「平和都市宣言」を、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。以来、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、「核兵器廃絶と平和展」「平和のつどい」などを毎年開催しています。

恒久平和を願う取り組みの一つとして、平成27年度より東大和市と合同で「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施してきました。今回で5年目を迎えた本事業は、今年も両市あわせて20人の小・中学生に参加していただきました。

小・中学生たちは、自分たちが暮らす身近な地域の戦争について、東村山ふるさと歴史館や東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所などの見学を通じ、しっかり学んだ上で広島を訪問しています。

そして、広島では被爆した袋町小学校平和資料館と本川小学校平和資料館、また広島平和記念資料館等を見学し、被爆直後の状況や被爆されたかたの遺品等の展示を見て、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを目の当たりにしました。特に、被爆者のかたから直接お話を聞いたことで、二度と戦争を起こしてはならないという思いを改めて強く持ったことでしょう。

時を経て、戦争を直接体験した方々が年々少なくなってきました。私たちは、次世代を担う子どもたちに、二度と戦争を起こしてはならないことを伝え、平和を守っていく、その先頭に立っていかなくてはなりません。

この事業を通じ、参加した小・中学生たちがどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧いただき、一緒に平和について考える機会にしていれば幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和元年12月



次

1	実施概要・日程	4
2	参加者名簿	5
3	地域の戦争・平和学習会	6
4	広島派遣	8
5	報告会	12
6	参加者感想文	
	Aグループ	16
	Bグループ	21
	Cグループ	26
	Dグループ	32
7	参加者アンケート	36
8	資料	
	東大和市平和都市宣言	40
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言	41

1

実施概要・日程





事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の小・中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

7月8日(月) 東村山市 7月9日(火) 東大和市	事業全体の事前説明会
7月31日(水)	地域の戦争・平和学習会(東大和市・東村山市)
8月5日(月)～7日(水) 2泊3日	広島派遣(広島市)
8月9日(金)	報告会準備(東村山市役所)
8月17日(土)	報告会(東大和市「平和市民のつどい」)
8月25日(日)	報告会(東村山市「平和のつどい」)

広島派遣日程

日次	月日(曜)	行 程	宿 泊 地
1	8/5(月)	<p>●集合時間 東大和市駅 9時00分 東村山駅 9時00分</p> <p>JR 新幹線利用 (のぞみ27号) 15:04 15:40</p> <p>東大和市駅(西武線) 11:17 品川駅 15:04 広島駅 15:40</p> <p>東村山駅(西武線) 18:20 夕食 19:15 ホテル</p> <p>【昼食:車中にてお弁当】</p> <p>広島市青少年センター ※広島被爆者体験講話聴講 とうろう作り (約2時間)</p>	広島
2	8/6(火)	<p>6:00 ホテル = 広島平和記念公園 9:00 平和の灯 9:40 原爆の子の像 10:25 爆心地見学</p> <p>(朝食) 7:15 (式典参加) ※式典:8:00～8:45 式典に参加し、原爆死 没者に哀悼の意を表し、 恒久平和の実現を祈り ました。</p> <p>10:35 袋町小学校平和資料館 11:30 13:00 本川小学校平和資料館 14:10 合人社ウェンディーひとまちプラザ</p> <p>※保存されている被爆した校舎 を見学し、平和を学びました。</p> <p>※被爆した旧国民学校の建物の 一部を利用した平和資料館を 見学しました。</p> <p>16:30 夕食 18:00 とうろう流し 19:30 ホテル</p> <p>※前日に作製した とうろうを流しました。</p>   	コートホテル広島
3	8/7(水)	<p>7:00 ホテル = 原爆ドーム 8:10 8:30 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・広島平和記念資料館 11:10 原爆ドーム前 12:53 広島駅 16:53 東京駅</p> <p>(朝食)</p> <p>※戦争や原爆に関する資料 に触れ、平和について 学習しました。</p> <p>※原爆ドーム前電停 より広島駅まで 路面電車(貸切) に乗車しました。</p> <p>【昼食:車中にてお弁当】</p> <p>●到着時間 東大和市駅 18時30分頃 東村山駅 18時20分頃</p> 	<p>JR 新幹線利用 (のぞみ130号)</p> <p>東大和市駅(西武線) 東村山駅(西武線)</p>

2

参加者名簿

◆ 市も学年も混合の4つのグループを編成し学習しました。

参加者: 東大和市 10人 (男5人 女5人)

東村山市 10人 (男8人 女2人)

報告会: B・Cグループ 8月17日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

A・Dグループ 8月25日(日) 東村山市「平和のつどい」

グループ	名 前	学 校	学 年
A	開 葵 唯	東村山市立東村山第三中学校	3年
	藪 悠 稀	東村山市立東村山第七中学校	1年
	矢 部 心 平	東大和市立第一中学校	1年
	笹 川 洸 太	東大和市立第八小学校	6年
	遠 藤 真 徳	東大和市立第九小学校	5年
B	松 本 直 樹	東村山市立東村山第三中学校	3年
	登 丸 歩 美	東大和市立第四中学校	2年
	石 井 優 作	東村山市立富士見小学校	6年
	河 野 廉 永	東村山市立回田小学校	5年
	唐 沢 舞	東大和市立第十小学校	5年
C	黒 澤 仁 美	東大和市立第五中学校	2年
	内 田 紗 希	東村山市立東村山第七中学校	1年
	山 中 望 希 豊	東村山市立東村山第四中学校	1年
	木 谷 瑠 華	東大和市立第一中学校	1年
	加 藤 空	東大和市立第八小学校	6年
	岩 本 正 弘	東村山市立久米川小学校	5年
D	廣 田 拓 海	八王子学園八王子中学校	1年
	田 邊 歩 香	東村山市立東村山第七中学校	1年
	保 科 陽 香	東大和市立第八小学校	6年
	深 川 直	東村山市立東萩山小学校	6年

3

地域の戦争・平和学習会

- 小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月31日(水)

午前

東村山市「被爆石モニュメント」見学・「東村山ふるさと歴史館」見学

東大和市 戦争体験映像記録DVD「沈黙の証言者」視聴

午後

東大和市指定文化財「旧日立航空機株式会社変電所」見学

グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと」「広島で学びたいこと」

被爆石モニュメント見学

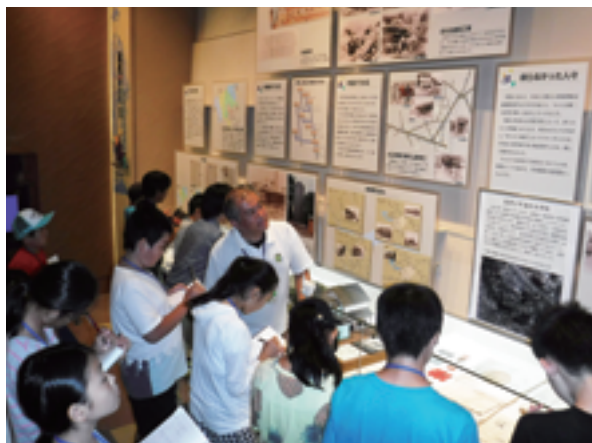
地域の戦争・平和学習会の第一歩として、「被爆石モニュメント」を見学しました。

原爆が投下されたことにより被爆した、広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を譲り受け、平成元年9月25日に「被爆石モニュメント」として東村山市立中央図書館前に設置したものです。このモニュメントは、人々に原爆の恐ろしさを訴え続けています。説明を聞いた小・中学生たちにとって、平和の尊さについて考える始まりの場所となりました。



東村山ふるさと歴史館見学

東村山ふるさと歴史館で、戦時下の東村山市の歴史について学びました。職員から、当時、東村山地域にもB29が飛来し照明弾と時限爆弾が投下されたことや、死者が出たことも教わりました。そのような中、低空飛行していたB29が南秋津に墜落し乗組員全員が死亡しましたが、のちに地元市民の手によって平和観音が建立され手厚く葬られたことを聞き、それぞれが自分の中の平和について考える機会となりました。また、軍事施設である東京陸軍少年通信兵学校についての説明では、戦時下では自分たちと年齢の近い子どもたちが通信兵となるべく学んでいたことを知り、興味深く聞いていました。



戦争体験映像記録DVD視聴

東大和市では、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談と、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」を制作しました。

証言された方々の話は、より身近な問題として子どもたちの心に訴えかけてきました。当時の様子を思い浮かべながら、視聴しました。



旧日立航空機株式会社変電所見学

昭和13年に建設された軍需工場の変電施設である「旧日立航空機株式会社変電所」は、昭和20年の空襲による傷痕が残る施設です。戦後、経営母体が変わっても修理されないまま平成5年まで操業を続け、平成7年に東大和市の文化財に指定されました。

学習会では、普段は公開されていない施設内にも入り、空襲による弾痕などが残る壁や階段等を見学しました。あわせて、東大和市立郷土博物館の職員から、施設周辺の状況や働いていた方々の被害についても説明を受け学習しました。



グループワークでのまとめ

これらの学習のまとめを行うために、4つのグループに分かれ、グループワークを行いました。

グループワークでは「地域の戦争・平和学習について感じたこと、考えたこと」また「広島で学びたいこと」をふせんと模造紙を使ってまとめ、広島を訪れる際の学習意識を高めました。



4

広島派遣

1日目
8/5(月)

広島被爆者体験講話の聴講

広島市青少年センター

講師: ^{ひらの さだお}平野貞男さん

被爆当時12歳だった平野さんからお話を聴きました。

当時は商業学校の1年生でしたが、勉強をすることはできず、焼夷弾が落とされたときに火事になるのを防ぐため、家を壊す作業をしなければいけなかったという話を聴き、学校に行き勉強できるということが、いかに幸せで恵まれていることかを感じさせられました。

平野さんは爆心地から約2.2km離れた学校の校庭にいた時に被爆しました。原爆投下直後の熱線で体が焼かれる様子や、周囲の同級生が苦しむ悲惨な状況について、ご自身で描かれた絵を使いながら、お話をいただきました。

聴講後、グループごとに分かれ、講話を聴いてわかったこと、感じたことなどを話し合いました。小・中学生たちは、原子爆弾の恐ろしさ、戦争の悲惨さを学ぶことができたとともに、戦争のない平和な世界をつくるためには、戦争の歴史を学ぶことが重要であることを理解しました。



とうろう作り

広島市青少年センター

2日目に行われるとうろう流しに使う色紙に、平和へのメッセージを書きました。小・中学生たちの思いが描かれたとうろうが出来上がりました。



2日目
8/6(火)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列し、原爆被害により亡くなられた方々に哀悼の意を込め、恒久平和を願い祈りました。世界各国からの参列者を目にし、小・中学生たちも平和は世界共通の願いだという思いを新たにしました。



平和の灯

台座は、手首を合わせ手のひらを大空に広げた形を表現しています。水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため建てられました。昭和39年8月1日に点火されて以来、核兵器が世界中から無くなり恒久平和が実現するときまで燃やし続けられるとされています。



原爆の子の像

2歳のときに被爆した佐々木禎子さんは、元気で活発な少女でしたが、小学校6年生のときに白血病を発症し、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。

悲しい知らせを聞いた同級生たちは、禎子さんをはじめ原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるため、多くの人々の協力を得、原爆の子の像を建てました。小・中学生たちも、自分たちが折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。



島病院（爆心地）

広島市の原爆の爆心地は、当時の島病院の上空と言われています。現在は島内科医院となっており、建物の横に、原爆被災についての説明板があります。病院の上空約600mで炸裂し爆心直下となったこの一帯は、約3,000度から4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が一瞬で命を奪われました。現在は静かなビル街となっている爆心地を見学した小・中学生たちは、当時の写真と周りを見比べて、昔ここで起こった出来事に思いを馳せました。



袋町小学校平和資料館

袋町小学校平和資料館は、被爆した校舎（西校舎）を改装して造られています。

原子爆弾により木造校舎は全壊全焼し、鉄筋コンクリート3階建ての西校舎は外形のみを残して焼失しました。登校していた児童、教職員約160人が朝礼直後に被爆し、ほとんどが犠牲になりました。被爆後、西校舎は救護所となり、階段室の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されました。残された伝言から、当時の様子がうかがえます。



本川小学校平和資料館

爆心地から最も近く（約410m）にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。本川小学校の校舎は外郭を残して全焼・全壊し、約400人の児童と10人の教職員、校舎内で勤務していた職員が犠牲となり、奇跡的に2名が生き残ったそうです。ボランティアガイドのかたの、「小さな平和を作れなくて、大きな平和は作れない」という言葉は、小・中学生たちの胸に深く刻まれました。



とうろう流し

平和記念公園の脇を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。それぞれのとうろうが無事に流れていくよう、ゆっくりと手を離す小・中学生の様子が印象的でした。

外国からも多くの参加がありました。平和への願いを乗せたとうろうを見守る姿は、万国共通のようです。



3日目
8/7(水)

原爆ドーム

原爆は、当時「広島県産業奨励館」であったこの建物から南東約160メートル、高度約600メートルの地点で炸裂し、この建物にいたかたちは全員亡くなりました。建物の頂上にある円盤鉄骨の形から、いつしか「原爆ドーム」と呼ばれるようになり、現在は世界遺産（文化遺産）に登録されています。

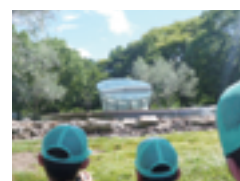
見事に復興を果たした広島街並みで、唯一破壊されたままの姿を残した原爆ドームに、戦争の悲惨さ、平和の尊さをそれぞれが胸に刻みました。



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・広島平和記念資料館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、追悼の意を表するとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。

広島平和記念資料館は、平成31年4月25日に本館がリニューアルオープンしました。被爆者の遺品を中心に被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島歩みなどについて紹介しています。資料の一つ一つが訴えかける戦争の悲惨さ、恐ろしさは、見学した小・中学生たちに大きな衝撃を与えました。



被爆路面電車

当初、被爆被害にあった路面電車に乗る予定でしたが、残念ながら故障中により乗ることができなかったため、通常の路面電車での移動となりました。

広島街を走る路面電車は原子爆弾投下からわずか3日後に、生き残った人々の努力により一部区間で運転を再開しました。



5

報告会

- ◆ 本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業に参加して、自分たちが思ったこと、平和のためにこれから行動していきたいことをまとめ、AからDまでの4グループのうち、B・Cグループが東大和市「平和市民のつどい」、A・Dグループが東村山市「平和のつどい」で発表しました。

報告会 ①

日時 令和元年8月17日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

場所 都立東大和南公園 旧日立航空機株式会社変電所前 平和広場

B グループ

旧日立航空機株式会社変電所について、戦時中の建物を地域の人が今まで残してきてくれたことで、戦争の歴史を学ぶことができると話しました。広島派遣では、被爆体験者の平野貞男さんのお話で、「どんなに苦しくても自殺はいけない」という言葉が深く印象に残ったとのことでした。原爆直後は、熱すぎて多くの人が川に飛び込んだことや、後々まで白血病や後遺症で苦しむ人がいるという話を聞き、戦争の悲惨さを感じ、二度と戦争を起こしてはならないという思いを強くしたことを伝えました。

これから自分たちが平和のためにできることは、原爆の体験を語ることができる人が減ってきたため、戦争による悲劇を忘れないこと、今回の学びを家族や友人に伝えること、身近なところから平和を作っていくことだと報告しました。

〈個人の発表〉

- 心に残ったことは原爆の恐ろしさです。たった一発の原子爆弾で、15万人が被害を受け約2km圏内全て破壊されてしまったことが、平和記念資料館でよくわかりました。佐々木禎子さんが被爆してから10年後に亡くなったように、原爆の被害は爆風や熱以外にも放射能があり、核兵器は恐ろしいものです。今回の学習で、被爆者から話を聞いた僕自身が、身近な家族や友達に伝えていかなければならないと思いました。平和のために人のことを考えて行動できるようになりたいです。
- 私は2つのことを行動したいです。一つ目は、あの日どのようなことが起こって、広島がどうなったのかを忘れないことです。なぜなら、忘れてしまったらまた同じことを繰り返してしまうかもしれないからです。二つ目は、人が嫌がる

ようなことをしないこと、自分がされて嫌なことをしないことです。また、変電所の銃弾の跡など、当時のことを語ってくれる建物を残しておくことです。当時のことを知らない人にも伝えていき、忘れないでいきたいです。

- 私は、まだ子どもなので戦争をやめさせることはできません。でも少しのこと、たとえばけんかを止める、優しく接する、そういうことで人を幸せにできると思います。この少しのことをみんながやれば、とてもいい世界を作れると思います。この少しを大人もやれば、平和な世界にできると思います。戦争を起こさない心ができます。この少しを世界中の人がすれば、核兵器もなくなると思います。
- 原爆を体験した人が減ってきていて、僕たちは直接話を聞くことができる最後の世代です。僕たちが次の世代にも戦争が怖いものと教えてあげると良いと思います。また核兵器が作られないように、他の国の人にもこの怖さなどを教えていきたいです。他にも、変電所、原爆ドームなどの建物を残し、平和記念式典も永遠に残していき、一生戦争の怖さを忘れないように、いろいろな資料館などを残して、いつか全部の国に平和が訪れるようにしていきたいです。
- 広島に行っているいろいろなことを学びました。被爆者、その友人、そのご遺族の方たちは、今でも戦争のことで苦



しんでいます。話をしてくださった被爆者の平野さんは、被爆当時12歳でしたが今でも体に残ったケロイドで苦しんでいます。今は、日本は平和になっていると思います。

今後は、平和のために広島で学んだことをみんなに伝えたいと思います。そして、この世界を良い世界にしたいと思います。

C グループ

地域の戦争・平和学習では、東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所を訪れ、自分たちの身近なところでも戦争の被害があったことを知り、その爆撃の強さに驚いたことを報告しました。広島派遣では、戦時中の人々の暮らしについて学び、その中で、戦時中の学生には夏休みや休日がなかったことを知り、それと比べて現在はとても幸福だと感じたと言いました。広島に落とされた原爆については、爆心地では3,000度から4,000度の熱さがあり、一瞬で人が黒焦げになったことを知りました。また、訪れた平和記念資料館では原子爆弾のすさまじい威力を物語る資料を見て、目をそむけたくなるほど怖かったと伝えてくれました。

〈個人の発表〉

- 原爆ドームや資料館に行き、原爆は広島をほぼ全部壊し、14万人の死者を出したことがわかりました。私たちは平和な日本で生きて生活できていますが、世界にはそうでないところもあります。僕は身の回りから争いをなくしたいです。そのために、自分のことばかり考えずに、人のことを思い、されて嫌なことはしないようにして、一つ一つのことをしっかりやり遂げたいです。
- 広島に行って、現地で体験したことにより言葉にできないぐらいの怖さと悲しさを感じました。資料館で見た怪我を負った人々の写真や絵、原爆ドームで見た瓦礫など、74年前の出来事に今も苦しんでいる人たちがたくさんいることを知りました。そして、広島の高い復興力から、悲しみや苦しみの中にも挫けない心、負けない心を勉強させていただきました。僕は広島派遣で学んだ命と平和の大切さをクラスの人に必ず報告します。
- 私は今回の派遣事業を通して、被爆者の生の声を聴き、学ぶことができました。しかし、この方々は高齢で、次の世代に語り継いでいく人がいなければ、この悲惨さを

伝えることが難しくなってきます。私は、環境破壊、核所有国の存在など様々な問題は、平和の力で解決していくことが大切だと思うとともに、戦争を学び語り継ぐことは今を生きる私たちの世代の使命だと思います。

- 私はこの事業を通して、日本は唯一の被爆国として、どこの国よりも積極的に戦争がなくなるように取り組み、争いのない地を作ることが必要だと思いました。これからは、被爆者の声を聞いた僕たちが、この次の世代へと伝え、戦争の悲惨さを胸に深く刻み、二度と戦争を起こしてはいけないことを忘れずに生きていきたいと思っています。
- 広島平和記念資料館では、何が起こったかわからないまま死んでしまった人々がいることや、一瞬で風景が変わってしまうことなどを知りました。一瞬で死んでしまった人たちのことを思うと悲しい気持ちになります。とうとう流しにもたくさんの意味があることを知りました。これらのことから、私は細かいことで争いをせず明るく希望を持って生きていきたいです。そして近くで細かい争いが起こってしまったら止められるような優しい人になりたいです。
- 私は今回の広島派遣事業で学んだことを生かし、これから二つのことを平和のために行動していこうと思います。一つ目は、クラスの中を平和にすることです。二つ目は、未来で核兵器の恐ろしさを伝え、平和を望む人を増やすことです。この二つを成し遂げたときこそ、笑顔あふれる未来がひらけると 생각합니다。



Aグループ

地域の戦争・平和学習からは東京陸軍少年通信兵学校について、広島派遣からは原爆と戦争の恐ろしさや命の大切さについて報告しました。

東村山ふるさと歴史館で、自分の住む地域には今も戦争中の建物が保存されていることを学び、このことにより当時の苦勞を知ることができたと語ってくれました。戦時中は同年代の子どもが東京陸軍少年通信兵学校で通信兵となるべく学んでいたことなどを知ること、その境遇を各自に置き換え、平和の尊さをより具体的に考えられるようになったようです。

実際に広島に行ってみて、資料館の見学や、被爆体験証言者のお話を伺ったことで、今の時代に戦争が起きたら・原爆が落ちたらと想像すると、考えていた以上に戦争は恐ろしく、命がどれだけ尊いかを改めて感じる事ができたと強く伝えてくれました。今回の学習から、身近なところから平和を作っていくことと、そして今度は自分たちが平和について語り伝えていくことを約束しました。

〈個人の発表〉

- 本川小学校を訪れた際に、ボランティアガイドの内藤さんが「小さい規模の平和が作れなくて、大規模な平和は作れない」と言っていたのが心に残りました。被爆者の話を聞いて、B29が静かに襲来したことや、子どもや女性も関係ない無差別な戦争について知りました。これからは体験者の方々に話してもらうことが難しくなっていくため、今回学んだことや感じたことを次の世代の人たちに広めていきたいです。
- 広島で平和記念式典に参加したとき、核兵器禁止条約に賛同しない日本政府に対して、松井市長が「署名・批准を求める被爆者の思いをしっかりと受け止めていただきたい」と求めていたことが印象に残りました。僕たちにできることは、命を削り語り継いでいる被爆者の話を風

化させず、同じ過ちを繰り返すことのないよう、核なき世界の実現を主張し続けていくことだと思います。

- 袋町小学校で、壁に伝言が残されていたこと、地下室があり防空壕のような役割があったことを知りました。感じたことは、人の消息さえも一瞬でわからない状態にしてしまう原爆を絶対に使ってはならないということです。広島では戦争の恐ろしさ、命の大切さを学びました。自分にできる平和のための活動をしていくことが大切だと思いました。
- 広島では平和と命の大切さを学びました。外国の人や戦争を知らない人々にも、当時の資料を使って伝えれば、戦争の悲惨さや失ったものについて、よくわかってくれると思います。聞くよりも見て体験する方が戦争や原爆について詳しく知ることが出来るので、ぜひ広島に行ってみてください。
- 広島平和記念資料館で見た写真の数々は衝撃的で悲しいものでした。広島平和記念資料館や、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などで色々なことがわかりました。もし今の時代に原爆が落とされたらと思うとぞっとします。絶対にあってはならないことだと思います。広島研修で学んだことを家族や友達などに伝えていきたいです。



D グループ

東村山ふるさと歴史館で、千人針や慰問袋などの資料を見学しました。慰問袋に兵隊さんへ向けた手紙などを入れて送っており、それがとても喜ばれたというお話を聞き、戦時中の慰めとなっていたことを知り感慨深かったと話してくれました。

平和記念式典に参加し、広島の小中学生によるスピーチから、「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うことの大切さを改めて感じたと報告しました。同年代の考えに深く感銘を受けたようです。

これから平和のために自分たちにできることは、まずクラスの仲間と仲良くすること、そして今回の学習で得たものを周りの人たちに伝えていくことだと報告してくれました。

〈個人の発表〉

- 資料館に展示していたものは、どれも原子爆弾の恐怖を伝えるものばかりでした。その中でも印象に残っているのは、三輪車のことです。元々3歳の男の子が乗っていたもので、原子爆弾によって亡くなってしまいましたが、男の子の父親があの世界でも遊べるようにと、遺骨と一緒に三輪車を埋めました。この三輪車を見て、平和のためには、自分より年下を守れるようになり、争いを止められるようになりたいと思いました。
- 私は今回広島に行き、式典に出て、けんかはやってはいけないことだと思いました。助け合い、支え合うことが大切であると感じ、「ありがとう」「ごめんなさい」という声をかわし合うことが大切だと思いました。自分が平和のためにできることは、クラスの中で、けんかが起こらないようにすること。戦争は小さな争いから始まります。けんかもその1つだと思います。
- 平和記念式典で、子ども代表の金田さんと石橋さんが「ありがとう」や「ごめんね」、などの

言葉を言い、許し合ったり、寄り添い助け合うことを言っていました。ぼくも、日ごろから小学校で「ありがとう」や「ごめんね」などを友達や先生や家族や地域の人たちにしっかりと言うように心がけたいです。こうしたあいさつを続けることが、平和につながると思います。

- 戦って勝ち負けを競い合うよりも、人にされていやなことを人にしない、人にされてうれしいことを人にする。そういうことを基本にして、戦争で亡くなった人が願いつづけて、叶わなかった平和を私たちが作っていきたいです。被爆した平野貞男さんの、「平和を作るには人の気持ちを考えることが大切」という言葉を胸にきざみ、平和な世界を作っていきたいと思います。



A グループ

広島派遣事業で学んだこと

開 葵唯



僕はこの広島派遣事業で、「平和の大切さ」「戦争は二度とやってはいけない」を自分の中のテーマとして広島での3日間を過ごしました。

1日目は、被爆者体験講話で平野貞男さんのお話を伺いました。平野さんは当時中学1年生で、学校の校庭にいました。原爆が落ちた8時15分、その一瞬で平野さんは、全身に大火傷を負い、被爆後の10年間でケロイドも残ったそうです。僕のテーマでもある「戦争は二度としない」ということも平野さんは強く話してくれました。平野さんのお話の中で僕は、ある言葉が印象に残りました。それは、「夢をもって生きないと、人生、生きているかいない」ということです。僕は、この言葉から、今生きているこの人生を大切に歩み、残りの人生を楽しく過ごそうと思いました。また命の大切さも強く感じることもできました。

2日目は、朝から平和記念式典に参加しました。平和記念式典では、たくさんの方が参加していて多くの外国のかたが見られました。色々な国からたくさんの方が来ていたことから、これは、日本だけの問題ではなく世界の問題なんだと思いました。その後、袋町小学校、本川小学校を訪ねました。袋町小学校では、黒板の裏や壁に、まだ見

つかっていない人や先生などに宛てた伝言として、メッセージがたくさん残っていました。戦後74年経った今もあれだけはっきりと残っているので、それだけ伝言を残した人達の気持ちが強かったんだと思いました。本川小学校では、学芸員の内藤さんに案内をしてもらいました。内藤さんには、平和、命の大切さについて主に話してもらいました。そこで、「小さな平和が作れなくて、大規模の平和は絶対に作れない。だから、まず身近な所の平和から作って下さい」と言われて、僕は、はっとしました。そして、その通りだなと思いました。

3日目は、広島平和記念資料館に行きました。資料館でかざられている物、一つ一つに物語があり、当時のまま残されていました。その展示品の中には、小さい子どもの物もたくさんありました。僕は、その時に、本気で、戦争はもう絶対に二度とやってはいけないと強く強く思いました。

今回の広島派遣事業では、3日間という限られた時間の中で、これだけのたくさんの事を学ぶことができ、とてもいい経験になりました。自分のテーマについても、今まで以上に深く考えられたので、良かったです。今回のこの経験を生かして、色々な人に広められるように頑張ります。



核なき世界へ

藪 悠稀

青空のもと、東村山市と東大和市が主催する「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加した。きっかけは、以前家族で広島を訪れた際に、改めて戦争の悲惨さや命の尊さについて学びたいと考えたからだ。

初めに、事前学習として地域の戦争・平和学習に参加した。東村山市にある「被爆石モニュメント」の存在を初めて知った。また、当時東大和市には航空機工場など軍需施設があることにより、空襲の第一目標で襲われていたことがわかった。

事前学習を進めていく中で、自分達が住んでいる身近な地域でさえ、戦争の脅威にさらされていたことを知り、この事実を知らない人にも広め、歴史をより学ぶべきだと考えた。

次に、広島へ訪れた。2日目には犠牲者に祈りを捧げ、平和の誓いを新たにする「平和記念式典」に参列した。式典には、被爆者や遺族をはじめ、安倍首相や米、ロシアなど核保有国を含む92カ国の代表者が参列していた。広島市の松井一實市長は、平和宣言で、核兵器の保有や使用などを禁じる核兵器禁止条約に賛同しない日本政府に対し、「署名・批准を求める被爆者の思いをしっかりと受け止めていただきたい」と求めていることが印象に残っている。式典では大勢の外国人の姿を見ることが出来、式典が世界中から関心を寄せられていることを知りうれしく感じた。一方で、戦後74年過ぎた今も戦争の傷跡は残り、苦しんでいるかたが大勢いることを知った。

また、3日目には、戦後最大となるリニューアルが行われた「広島平和記念資料館」へ訪れた。新たな展示で大切にしたことは、あの日のご雲の下にいた一人一人に思いをさせてもらうことだ。そのために、遺品にまつわるエピソードを調査し、かけがえのない日常や特別な家族をうばわ

れた悲しみを記した展示内容であった。遺品を見ていると「自分がこのかただったらどんな気持ちだろう」と思わず考えて胸が詰まってしまうことが度々あった。遺品の中で印象深かったものはわずか2歳で亡くなった太尾田洋夫さんのパンツだ。どれだけ洗っても決して落ちなかった人間の油とみられるしみが残り、洋夫さんが負った傷の深さを物語っていた。見学を終え、自分は被爆者や戦後必死に生きぬいた方々のおかげで今の幸せが成り立っていることを実感した。

広島が核兵器の恐ろしさを訴える一方で、世界では核をめぐり、きびしい状況が続いている。唯一の被爆国である日本は、「核兵器禁止条約」に賛同していないのが現状だ。「アプローチの仕方が我国とは違う」という安倍首相の言葉に被爆者や遺族はどんなに傷ついたことだろうか。政府は心をけずって戦争を語り継いでいる方々の存在をどう感じているだろう。被爆者の平均年齢は82歳を超え、戦争を直接体験した世代は今後ますます減少してゆくだろう。日本を担う僕達は決して被爆者の思いを無駄にしてはいけない。僕達に出来ることは何だろうか？それは被爆者、語り部の方々の努力を僕達が風化させず、次世代へ語り継ぐことだと思う。そのためにも決してあきらめず、勇気をもって主張し続けたい。

「核なき世界の実現を」と。



過去の戦争とこれからの平和

矢部 心平

僕は、この夏に広島市・東大和市・東村山市の悲惨な過去を知りました。それは、口では表せないほど悲惨なものでした。この戦争は、人と人との殺し合い、いわば現在の犯罪です。これを進んでやっていた日本そしてそれに加わったまたは、対抗した欧米列強や大東亜共栄圏などの各国の政府は何を考えていたのか、一人の命を大切にす我々には、理解不能です。

では、戦争をしたいという意欲が国民にはあったのでしょうか。僕はそうは思えません。今、戦争の悲惨さを語る被爆者のかたたちの話を聞けば、すべて戦争を否定するものばかりであって、肯定するものは一つとしてありません。ということは、戦争をしたくないのにしていた、つまりやらされていたことになるではありませんか。こんなにひどいことはあるのでしょうか。

原爆が落ちた広島の爪跡はひどいものです。広島シンボルマーク的存在であった産業奨励館は、爆心地から近いためか、ひどい壊されようでした。あの館内にいた人や近くにいた人は、何も考えられずに亡くられたのかと思うと、鳥肌がたちます。そういった被害をもたらず原爆を、二度と使うべきではないと思います。

東大和市や東村山市の爪跡も、少なからずあります。西の原爆ドーム、東の変電所ともいわれる、戦災建築物が東大和市にはあります。あの建物を外から見るだけでも、当時この場所で何があったかわかるでしょう。建物の内側へ入るともっと爆撃の激しさがわかります。コンクリートの壁を突き破り貫通している銃弾は、爆撃のうちの一つです。また、外をよく見ると、衝撃で石がはねて、壁に石が突き刺さったままなのがわかります。

東村山市では、学校などの陸軍の施設が多かったようです。こうして子どもの時から、軍事的な

人に仕立てられたのかと思うとぞっとします。

今、アメリカ合衆国やロシア連邦が核保有国として挙げられます。この2ヶ国は、ロシアは、旧ソビエト連邦で、かつては日本と戦争をした国です。アメリカは、日本に2発もの、原子爆弾を落としてもまだ戦争にこりぬのでしょうか。中国との貿易摩擦を、武力解決させるためでしょうか。いずれにせよ、人の命を奪い奪われることに変わりはありません。アメリカ人は、命を奪われたいのか、ロシア人は、命を奪われたいのかと質問をすれば、ほぼ100パーセントの人が、そんなわけないと答えるでしょう。では、なぜ核兵器を持っているのだろう。それは、その方が楽だからではないのでしょうか。楽をするために、人を殺すというのは、大きな間違いです。人を殺さないために、話し合うのだと思います。

そして、国内の争いごとが絶えないと、国際的な平和は、当然作れません。だから、国内の争いごともなくさなくてはなりません。

これから、未来を担う僕たち小・中学生が、人の事を考え、人の命を敬う事をすれば、世界平和は、きっと訪れる。そのための、働きを期待されている自覚を、私たち一人一人がもつべきであると思います。



この事業で感じたこと

笹川 洸太



ぼくは、この事業に参加して、まず、身の周りでは、戦争が起こっていなかったと思っていました。

事前学習では地域の戦争のことについて学びました。東村山市の資料館では東村山市の戦争の歴史について書かれたものを見ました。身近な所でも戦争に関わることがたくさんあったことにびっくりしました。「じゃあ、広島だったらどうなんだろう。」と思いました。

広島で心に残ったことは2つあります。1つは、平和記念式典です。式典に参加したぼくたちは、戦争に関わる人の話を近くで聞きました。話した人全員、戦争は二度と起こらないでほしいということを言っていました。ぼくも同じで、戦争は、何も罪もない人が殺されてしまうという、ひどいことです。ぼくは、戦争を体験したことがありませんが、大規模な式典が行われるということは、かなり重要なことなんだと思います。式典が行われた平和記念公園には、戦争に関わる物がありました。一つ一つに説明が書かれており、戦争の怖さや悲惨さを教えてくれました。

2つ目の心に残ったことは、広島平和記念資料館です。資料館には、広島戦争のことがまとまっていました。特に原爆に関わるものが展示さ

れていました。何回見ても悲惨な絵や写真、「なぜこんなことが起きたんだろう」と思うと、答えはすぐそこにありました。戦争が好きなのはどこにもいません。ですが、戦争が起こってしまいました。そして、今もどこかで戦争が起きています。ケンカが起きたら、平和ではありません。なので、身の周りから、平和をつくっていくのが大切だと思います。そのことを伝えるために、この資料館はつくられたのだと思います。

広島に行ってびっくりしたことは、街の様子です。なぜなら、戦争に関わる資料が今も数多く残っているにも関わらず、戦争があったことすらわからない街になっていたからです。特にすごいと思ったのは原爆ドームです。爆心地の近くにあった建物で、爆風をうけながらも、建物の原型は残りました。原爆ドームには今もたくさんの観光客が来ています。人気の理由はやはり、今も残っているからだと思います。

この事業でわかったことは、戦争はしても意味がなく、とてもひどいことなのでしてはいけないことと、あらためて、命の大切さを知りました。このようなことがわかるのは、戦後人々が努力してきたからだだと思います。その思いを受けついで、戦争のことを忘れられないように私たちが伝えていくよう頑張っていきたいです。



地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して

遠藤 真徳



私がこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加しようと思ったのは、広島に行ってみようということと、親にすすめられたという軽い気持ちからでした。

事前学習では東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所に行きました。1945年（今から約74年前）に戦闘機から発射された弾こんを見て、私達が住んでいる東大和市にも戦争があったことを実感しました。しかし、広島平和記念資料館で見た写真の数々はさらに衝撃的なものばかりでした。特に原爆被害については目を背けたくなるものばかりでした。

私はこの派遣事業で3つのことを学びました。1つ目は「原爆」についてです。アメリカは原爆の威力を正確に判定できるよう、投下目標3マイル（約4.8km）以上の市街地の中から広島市を選びました。爆風の被害を大きくする地形の都市と考えられたためです。

2つ目は「核兵器」の恐ろしさについてです。広島に投下された原爆の名前は「リトル・ボーイ」と言い、広島市の島病院の上で爆発しました。原爆が落とされた後でも後遺症に苦しめられた人

がたくさんいます。原爆の爆発による放射線の被害はおそろしいものです。子どもでも髪の毛が抜けてしまったり、白血病やがんになって人々を苦しめました。爆発して終わりではなく、生きながら一生後遺症と戦い続けなければならないのです。

3つ目は「原爆ドーム」についてです。原爆ドームは大正4年に物産陳列館として広島県内の物産品の展示、販売をする施設として建てられました。原爆の後でもその形が残っています。原爆の記録を風化させないため、ノーモアヒロシマの象徴として核兵器廃絶と恒久平和の大切さを訴えるシンボルとなっています。

たくさんの方をこの事業で学ぶことが出来ました。もし、今の時代に原爆が落とされたらということは考えたくもありません。絶対にあってはならないことだと思います。広島で話をしてくれたおじいさんに「人の悲しみや苦しみをわかる子になってほしい」と言われました。この活動に参加し、見て学んだことを、忘れることのないよう家族や友だちに伝えていきたいと思います。最後にこの事業に関わったみなさんにお礼が言いたいです。ありがとうございました。



B グループ

忘れてはならない広島の過去

松本 直樹

僕がこの広島派遣事業で一番印象に残ったことは、原爆の恐ろしさです。僕達が初めに広島派遣事業で学んだことは、地域の戦争です。自分が知っている、いつも通っている建物やよく遊んでいる公園も、実は昔、戦争のための軍需施設だったということを知りました。東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所は、3回の空襲でも破壊されずに残っているということで実際に行きました。そこには、本当に銃弾やはねかえってあたって岩の跡がありながらも、立派に建っている変電所がありました。建物の中もボロボロで実際に銃弾が貫通した所がありました。本当にこの場所も空襲にあったということが改めてわかりました。

しかし、広島原爆の被害を考えるとまだ小さい方だと思います。広島では、初日に被爆体験者の平野さんの講話を聴きました。話の内容で一番印象に残っていることは、平野さんが12才だった時は夏休みに働かされていたという話です。平野さんの夏休みは、「月月火水木金土」といわれていて、空襲で家が燃え広がらないように、毎日家をロープで崩していたそうです。当時、小学生も働かされていたのは、とても驚きでした。そして8月6日の話もしてくれました。平野さんが被爆したのは、朝礼の時だったそうです。オレンジ色の光が3秒から4秒の間降り注がれました。そしてものすごい爆風が襲ったそうです。平野さんは、オレンジ色の放射能のせいでケロイドという病気になりました。その後はつらい人生だったそうです。今の世界で、核が無くならないのはなぜだろうと思いました。核の恐ろしさを知りました。

2日目は、平和記念式典に参加しました。外国からも多くのかたが訪れていて、とても緊迫した

空気の中で始まりました。いつもテレビで見ている式典に実際に出ていると思うと、本当にすごい体験だなと思いました。50分がとても短く感じました。その後、公園内をまわり爆心地に行きました。爆心地の周りには、とても高いビルがたくさん建っていて、とてもここに原爆が落ちたとは考えづらかったです。

今回の学習では、原爆にあった小学校を2つ見に行きました。その内の1つがとても印象に残っています。それは、本川小学校です。内藤さんの話は、僕の心を悲しくしました。原爆があった時、この小学校ではたくさんの子供が朝の時間に色々なことをしていたそうです。そして、8時15分、ものすごい熱風がこの学校を襲いました。学校にあった6つの鉄柱がすべて吹き飛びました。その鉄柱は、教室の壁をつき破り中にいた子どもを巻き込み教室の端まで飛んだそうです。学校で生き残ったのは、なんと一人だけだったそうです。本当に恐ろしいと思いました。その生き残った子のことを考えても、家族や周りの友達もみんな死んでしまったのだからとても辛かったと思います。最終日に行った広島平和記念資料館では、原爆が落ちた時の様子をCGで見ました。特に、爆風で街が一瞬にして破壊される様子は想像以上にひどいものでした。

そんな核爆弾が、今でも世界中にたくさんあります。再び、世界のどこかで同じように使われるかもしれないと考えると心が痛みます。僕が出来ることは、広島派遣事業で今回学んだことを周りの友達や家族に伝えることです。そして、自分がされて嫌なことは、絶対にやらないということを中心に留めて日々を過ごしていきたいと思います。本当にいい経験になったと思います。

広島へ行って見て

登丸 歩美

私は、今回初めて広島に行きました。広島に行き、袋町小学校平和資料館では、多くの資料を見て、多くの葉を届けてくれた人がいたこと、まだ見つからない人がいることなどがわかり、まだ見つからない人は、できることなら早く見つかってほしいと思いました。

原爆の子の像では、像のモデルになった子が亡くなるまで平和を願っていたこと、12才で亡くなってしまったということがわかり、悲しいと思うと同時に、原爆とは恐ろしいものだとなりました。

被爆者体験講話の語り部さんの話からは、被爆した時に火傷を負ったため、辛い思いをしていること、今は平和すぎる、戦争は無差別だったということを知り、今、戦争が日本で起こらなくて良かったと思うと同時に、また戦争が起こり、多くの人に悲しんでほしくないと思いました。

本川小学校では、「自分のクラスが平和ではなかったら、大きな世界で考えて、争いごとがなくなるわけがない」という話を聞いて、たしかにその通りだと思いました。

平和の灯は、神社や宗派から集めてきた火が灯されていて、世界が平和になると火を消すといわれています。私は早くその火が消えて、争いごとのない世界がきてほしいと思いました。

地域の戦争・平和学習会では、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所で、学生や女性が働いていたこと、3回空襲にあつて、貫通している所があることを知りました。私は、学生も働いていたと聞いて、すごいと思いました。また、戦争の被害にあった建物を残して、戦争を忘れないためにも良いことだと思いました。

広島平和記念資料館には、手紙や遺書が置いてありました。亡くなった人の写真のパネルの中に

は、赤ちゃんもいました。衣服は原形もないほどぼろぼろで、恐ろしさが強く伝わってきました。私は、多くの人が、家族が亡くなって、悲しかったこと、また、もっと生きたかったのだろうと思いました。また、被爆した人は、川に飛び込んだことがわかりました。

広島平和記念式典に参加して、広島市長は「原爆や戦争を単なる過去の出来事と捉えず、また被爆者や平和な世界を目指す人たちの声や努力を自らのものとして、たゆむことなく前進していくことが重要となります」と話していて、私は、戦争や原爆は、いつ起きてもおかしくないもので、平和な世界を目指すことが大切なのだと思ったので、忘れないようにしていきたいです。

最後に、私は、もう二度と戦争を起こさないようにするため、あの日広島に起きたことを忘れないで、友達に教えていきます。また、「人の嫌がることと自分がされたら嫌なこと」をしないで、周りや仲良くしていきます。

私は、様々なことを学んで、今まで知らなかったことを知ることができたので、この2つのことを行動し、平和についてできる手助けを、ほんの少しでもしていきたいです。



広島派遣事業に参加して

石井 優作

ぼくは、原爆の怖さ、戦争の恐ろしさを知りたくて、広島派遣事業に応募しました。

広島に行く前に、地域の戦争について学びました。東村山市の梅岩寺というお寺にも爆弾が落とされて、身近な地域でも戦争が激しかったことがわかりました。東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所は、大きな穴や小さな穴がたくさんありました。大きな穴は爆弾の勢いで石が飛んで貫通したもので、小さな穴はピストルによるものだそうです。ぼくはこれを見て、爆弾の勢いのすごさを感じ、怖いと思いました。

そして8月5日に広島に行きました。1日目は新幹線の中で鶴を折りました。心をこめていっぱい折りました。広島に着いて、原爆を体験した平野さんのお話を聞きました。当時は月月火水木金と休みなく働いていたそうです。そして、8月6日8時15分に原爆が落とされました。その時に1500度くらいの光を3～4秒浴びせられ、爆風がきました。この話を聞いた時ぼくは、驚きました。すごい高熱を人間があびたと思ったら怖くて仕方ありません。平野さんは必死で逃げ、全身焼けていたそうです。

2日目は平和記念式典に、朝早く起きて参加しました。そして1分間の黙とうをしました。ぼくは、二度と戦争をやってはいけないと思いました。次に平和の灯を見に行きました。平和の灯は手のひらの形をしており、火が消えた時平和が訪れるそうです。ぼくは早く火が消えて平和が訪れるといいなと思いました。次に原爆の子の像を見に行きました。モデルは禎子さんという人です。禎子さんは、2才の時に被爆して、12才で白血病になって、鶴を千羽折ったら治るかもと聞いて鶴を折りました。その数は千羽を超えましたが、願いは叶わず12才で亡くなってしまいました。

次に爆心地に行きました。原爆は病院の近くに落とされました。病院にいた人は即死だったそうです。次は袋町小学校平和資料館に行きました。爆心地から460mの位置にある袋町小学校の黒板には、いろいろな伝言が書いてありました。生きている人、亡くなっている人など書いてあり、ぼくはここも被害が大きくて恐ろしいと思いました。

3日目は広島平和記念資料館に行きました。そこで見た物は、黒くさびついている三輪車、真黒な弁当です。この弁当は折免滋君という人が、抱えながら亡くなったという悲しい過去があります。ぼくはその弁当を再現したものを食べました。滋くんがこの弁当を食べられなかったと思うと、すごく悲しい気持ちになりました。

広島から帰ってきて、東大和市平和市民のつどいで発表しました。少し緊張しましたが、すらすら発表できてよかったです。ぼくはこの広島派遣事業に参加して、二度と戦争は起こしてはダメだということがわかりました。



平和学習を通して学んだこと

河野 廉永



僕は歴史が好きです。けれど、戦争の話の話を聞いたりすると怖くなっていました。広島派遣事業で広島に行くことが決まって、戦争の本を読んだり、広島戦争の映画を見たりして、悲惨なことが起きていたのだなと感じていました。

まず、自分たちが住んでいる東村山市や東大和市の戦争について学びました。見学した中で、東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所は、「西の原爆ドーム、東の変電所」と呼ばれている、戦争から奇跡的に残った建物で、外の壁にも建物の中にも、爆弾やピストルの跡といわれるたくさんのくぼみがありました。そこでは、若い女の人や学生が多く働いていたことや、飛行機工場だったことで敵にねらわれていたこと、爆撃で多くの人が亡くなったことを知りました。

8月5日から7日までは、広島に行って、平和記念式典に出席したり、戦争に関係する色々な所を見学したりしました。平和記念公園やその周辺には、原爆ドームや式典会場、原爆の子の像がありました。

原爆の子の像は、被爆者の禎子さんが白血病で亡くなるまでの間、「戦争はだめだ。」と言い続けていたことを知って、仲間たちが協力して呼びかけ、作られた像だそうです。平和の灯は、手首を合わせて火を囲んだデザインで、その火は世界か

ら核兵器がなくなるまで燃え続けるそうです。核兵器は人を殺す武器になるので、その火が少しでも早く消えるといいなと思いました。

悲惨なことが起きていたのだな、と思っていたけれど、実際に広島で被爆者のかたの講話を聞いて、もっと残酷で悲惨だったと感じました。

平和記念資料館では、展示されているのを見ると、苦しくて悲しい気持ちになりました。

広島はにぎやかで、お好み焼きもすごく美味しかったし、一緒に行った仲間たちともさらに仲良くなる事が出来て、楽しい旅行にもなりました。けれども僕と変わらない年の人たちが、74年前は戦争の中にいて、学校で勉強することができなったり、家族を失ったり、ご飯が少なかったり、平和記念式典のあった日に原爆でさらに残酷に変わったのだと改めて感じました。

この広島派遣事業でぼくは、平和とは、みんなが傷つかず、手を取り合って仲良くすることだと思いました。そのためにまずは、小さなけんかや暴力をなくし、この世界をいい世界にしていきたいです。

まだ戦争について学ぶと怖くなるけれど、それは日本に実際に起きたことで、世界では今も戦争が起きています。だからこれからも学んでいきます。



平和の大切さ

唐沢 舞



わたしは、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で、3つのことを学びました。

1つは、地域の戦争です。戦争といえば、沖縄戦や広島、東京大空襲のことだと思いました。地域の戦争はあまり知りませんでした。

だけど、いろいろなことを知ることができました。例えば、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所は、戦時中の仕事場の一つでした。その変電所には、女性が多く働いていました。戦争に男の人が行ってしまったからです。ぼこぼこしている穴は、爆撃により石が飛んだせいで欠けたそうです。小さなあの石で欠けるということは、石が鉄砲のようで怖いです。

一番印象が大きかったのは、東村山市にB29が落ちたということです。とても大きい飛行機なので、落ちた時大変だったと思いました。今、東京に大きな飛行機が落ちたらと思うと怖いです。

2つ目は広島市に落とされた原子爆弾です。原爆は、とっても怖い物です。爆弾は、とっても恐ろしいです。でも原爆はとってもとっても、とっても恐ろしくて1万倍くらい怖いです。

何が怖いのかというと、原爆が落ちました。爆発しました。その後、5秒経ちました。そうしたら、大勢の人が倒れて、死んでいるのです。考え

ただでぞっとします。これを5秒ほどでしてしまふのです。5秒です。5秒だと何が起きたのかが、分からないまま死んでしまふのです。核兵器は、とっても怖いです。

3つ目は、平和とは何かです。

「平和」一よく使う言葉です。でも、平和って何ですか。けんかがないこと。事件がないこと。みんなが笑顔。ご飯が食べられる。でもわたしの思う平和は、今。この瞬間です。今生きていること。そう思います。

平野さんという原爆の被害を受けたかたの話を聞いて思いました。あの時、原爆が落ちた、8月6日。生きているかも、わからない怖い時間。それを思うと平和は、もう今、今の瞬間のことだと言っていました。

わたしは、戦争についてのとても大切な貴重な体験をさせてもらいました。このことをたくさんの人に話し、伝えていこうと思います。



C グループ

この事業に参加して

黒澤 仁美

私は今年の8月に市の地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加しました。

東大和市では、戦災建造物として東大和市指定文化財と認定された旧日立航空機株式会社変電所と給水塔を見学しました。変電所のコンクリートの外壁には無数の穴跡、内装や中の階段までも欠けた跡がたくさんあり、弾丸の威力がいかに凄まじかったのかを感じました。これらは、私たちが住んでいるこの街が激しい戦場だったことを教えてくれています。この地域の多くの人が戦火の中、逃げ惑い、苦しんで亡くなっていったのです。そのことを忘れないでほしいという願いが込められていると思うので、大切に残していかなければならないと思いました。

東村山市では、東村山ふるさと歴史館で戦時中の日本軍や軍事施設、人々の暮らしなどについて学びました。日本兵には、高校生くらいの若い世代も加わっていたと知り、この時代は多くのお国のためだと教育され、戦争をして、勝つことが正義とされていたということがわかりました。小学生の子どもでも「勤労奉仕」といって、軍隊の人の代わりに働きに出ることもあったそうです。農家に手伝いに行ったり、手紙や包帯などが入っていた慰問袋など当時の生活がわかる資料を見ました。戦時中、一部の日本人はアメリカ兵を竹やりで傷つけて報復したこともあったということを知り、強い印象を受けました。私は、戦争は環境だけでなく、人間の心も考えも変えてしまうとわかり、戦争ほど悲惨なものはないと感じました。また、同市には長崎市と広島市から譲り受けた、原爆の威力を示す被爆石のモニュメントがあります。分厚く、頑丈な硬い校舎の壁が原子爆弾による空襲で一瞬にして吹き飛び破壊されたこと

がわかり、ものすごい熱風だったと思い、想像がつかみませんでした。

実際に行った広島には、原爆ドームや本川小学校、爆心地など、たくさんの原爆の跡があり、どの場所でもたくさんの折り鶴と、亡くなったかたを弔う石碑があり、平和と希望を願うことの大切さを感じました。最も印象に残った広島平和記念資料館には、被爆後の現状を伝える一部が焼けて無くなった服、家族を失い1人残された子の悲しげな写真、全身ケロイドで水を求めさ迷う人々の絵などがあり、目を背けたくするような衝撃を受けました。

私はこの事業に参加して、戦争というものがどれほどの悪影響を多くの生態系に与えたのかを知り、戦争を学ぶことは未来を考えることであるということを知りました。私は、参加する前まで「平和」とは何だろう、という疑問を抱いていました。それに対して、戦争体験者は「平和とは「戦争がない」ことではなく、人間が人間らしく自由に生き輝いていることだ。」と語っていました。それを聞いて、今の暮らしにはいじめがあり、核兵器を保有している国や人を苦しめる政権や政党が存在しているため、平和ではないんだとわかりました。だからこそ、全ての生態系が生き輝く日々を過ごせるように、日本は唯一の被爆国として、世界の現実を見て平和意識を高め、核兵器が無くなるように行動しなくてはならないんだと思います。

そして、私たちは私たちがかけがえのない尊い命がある限り、希望を持ち続け、戦争と平和について語り継ぐことが大切です。私は学んだことを自信に変え、まずは社会問題である「いじめ」や世界の苦しむ人たちのためにできることから行動していきます。

平和な世界を築くために

内田 紗希

「8月6日?何の日?」。私たちが広島に行って学んだことをクラスの人、日本人、世界中の人に伝えた。そう思った。

地域の戦争・平和学習では、自分たちが住んでいる地域の秋津に、広島に原爆を落としたB 29が墜落し、日本人1人とB 29に乗っていた外国人が亡くなったことや、東村山市には、戦時中、都心の子どもたちが疎開に来ていたことなど、自分たちが住んでいる地域で戦時中にどのようなことがあったのかを知った。

広島に行く新幹線内では、ワクワクドキドキしていた。広島ではどんなことを学べるだろうか楽しみで仕方なかった。

広島に着いても、広島に来たと実感できなかった。着いてすぐに被爆者の平野さんのお話を聞いて知ったことは、原爆は普通の爆弾とは違って人を4000度で黒こげにして殺すということ。生き延びた人も、1500度で焼かれたため、ケロイドといって汗をかかなくなる体になり今も苦しんでいるということだ。それから、原爆を落とそうと思っていたのは京都だったけれど、文化遺産が多くあるため広島市に落としたということを知り、米軍は日本の文化遺産のことを気にしていたとわかった。

2日目は平和記念式典に参加して、えらい人たちの話を聞いて戦争のない未来を想像できた。そのあとに、平和記念公園をガイドしてもらい平和の灯・原爆の子の像・原爆ドームのことについてくわしく教えてもらった。そして平和記念公園の少し離れた場所の爆心地も見に行った。爆心地の島内科医院の周りにはビルが立ち並んでいて、とても爆心地と思えなかった。

被爆した小学校にも2カ所行った。1つ目の袋町小学校平和資料館に行き、まず目に入ったものは、被爆後に被爆者たちが家族の生存確認などに使っていた伝言板を復元したものだ。その伝言板には、ビッシリと字が書かれていた。2階に行くとたくさんの千羽

鶴が飾られていた。その中には手紙もあった。それを見てどれだけの子どもがこの小学校で亡くなったかが想像できてしまう。地下に行くと爆風の威力がわかる太鼓が置かれていた。その太鼓は爆風により両側のたたく場所が破れていて、トンネルのようになっていた。その次に見たビデオで、広島市民の人生は8月6日に原爆によって壊されたということがわかった。2つ目は、本川小学校平和資料館で、資料館に飾られている展示物は、物語を語っている、ということ資料館のかたから学んだ。2日目の夜は、とうろう流しをした。“この世界から戦争という言葉がなくなりますように”と、世界中の人々がこの願いをしたときこそ、平和の灯が消えて平和な世界になると思った。

3日目、ついに東京に帰る日。広島平和記念資料館に行った。その時に役に立ったのは、前日行った本川小学校平和資料館での、展示物の見方だった。そのことを思い出して、展示物は物語を語っている、ということを入れて資料館を見て回った。展示物は、どれも目をそむけたくなる物だった。でもそこで目をそむけたら原爆と向きあえないと思い、一つ一つを真剣に見て回った。

最後に、駅に向かう路面電車に乗車した。人生で初めて路面電車に乗ったので、とてもワクワクした。でもすぐに駅に着いてしまった。

東京に着き、そこで感じたのは、家族に会える嬉しい気持ちと、友達との楽しかった日々が終わってしまった、悲しい気持ちだった。そんな思いを抱きながら家に着いてしまった。

家に着いてまず見たものは、広島に行っていた時にずっとかぶっていた、みんないっしょの帽子。私はそのときに、この帽子を初めてかぶった7月31日そのときから、私たちはもう平和への一歩を踏み出している、と思った。

広島派遣で身についたこと

山中 望希豊

僕はこの広島の事業を通して原爆の恐ろしさを知りました。

原爆ドームを見たり広島平和記念資料館に行つて、広島に落ちた原爆はほぼ街の全部を壊したんだなと思いました。

そして僕はこう思いました。身に周りのけんかを止めて、やられていやなことはしないようにしたいです。

僕はこの事業で友達は何人もできて、ホテルへの帰り道のときにふざけたりして楽しかったです。おこのみやきやおにぎりなどがおいしかったです。ホテルで1日目はあまり寝なかったけど、2日目はぐっすり寝れて、深川くんとも仲良くなりました。あと廣田くんや保科さんや田邊さんとも仲良くなりました。

僕は仲良くなった子とまた遊ぼうねと約束しました。

僕はこの広島の授業で友達もでき、広島のことでも知ることができて良かったです。

僕は広島に初めて行ったのでいい経験になりました。新幹線も初めてだったので良かったです。

でも原爆がこんなにも悲しいこともわかりました。僕は、原爆の体験者がいなくなっても、原爆の話は誰かに伝えたいです。僕はこの機会を通して学んだことを忘れないでおきます。

また今回できた友達や他の誰かと広島に来て教えたいです。もし広島に行ったらあのおこのみやき屋さんに連れて行きたいです。

原爆のことを知ることができて本当に良かったです。このままだと、広島は原爆が落ちた場所としかみんなは思わなくなってしまうと思いました。

本当にありがとうございました。



広島派遣事業で思ったこと

木谷 瑠華



私が広島派遣事業でわかったこと感じたことは3つあります。1つ目は広島市のことについてです。広島市では貴重な体験ができました。次に原爆ドームや広島平和記念資料館のことについてです。原爆ドームでは、原爆が落ちる前に100人以上の人がいたことや、今は文化遺産であるということがわかりました。資料館では、たくさんの物を見たりたくさんを知りました。どのようなことを知ったかという、逃げる時間がなく一瞬で風景が変わってしまったことや、人々は何が起こったのかわからないまま死んでしまったことを知りました。資料館にはたくさんのことが書いてあり、戦争がすごく怖いものと知りました。他にも被爆者である平野さんの話や平和の灯など、広島派遣事業で学んだことは忘れずに色々な人に戦争が怖いことを伝えたいです。

2つ目は地域の戦争・平和学習や広島派遣事業で学んだことを発表したことについてです。私は最初戦争について知りませんでした。でも今はたくさんを知りました。なのでその知ったことを私はCグループのメンバーで発表しました。発表はとても緊張しました。ですがBグループが発表しているのを見て頑張ろうと思いました。発表では広島で学べたことや個人作文をしっかりと

うことができました。Cグループでしっかり言うことをまとめられてよかったです。

3つ目は私が広島派遣事業で何を学んだかについてのまとめと感想です。まず被爆者体験講話の平野さんの話で心に残ったのは、「ガソリン一滴は血の一滴」という言葉です。日本には資源がないから戦争に勝てないんだと思いました。80年前はすごくきれいな空や川だったことも知りました。これを聞いて少しでも川などがきれいになってほしいと思いました。平野さんはケロイドを気持ち悪がられて苦労したことも知りました。本当に戦争があったことは忘れてはいけないと思いました。私は少しでも多く自分に何ができるのかをしっかりと考えたいです。広島でのことでは本当に心に残っています。来年もし広島に行く人がいたら、戦争について知ってほしいです。多くの人たちが亡くなってしまったことはたくさんの人たちの心の中にあるのかなと思います。私はすぐに怒らず優しい人になりたいです。なのでたくさん努力したいです。多くの人が広島に行きそこで何が起こったか知るべきだと思いました。広島派遣事業に参加して戦争のことを知れて私はとても勉強になりました。



戦争について

加藤 空

1941年12月8日から、太平洋戦争が始まった。この戦争は日本が始めた戦争だった。約3年間のこの戦争で、日本での死亡者は310万人、原子爆弾では310万人中、広島では14万人、長崎では7万4000人、計21万4000人の人が命を落とした。

昔は、全国から中学生を集め、試験を行い、その試験に合格した人だけが兵士になり、戦争に行かなかった、年寄りの人、小学生くらいの人たちは農作業をし、作物を作っていた。

当時平均寿命は、男性が23.5歳、女性は32歳と、男女関係なく、多くの人が若い歳で亡くなっていることがわかる。

日本は、そのころものすごく物資が不足していたながらも、太平洋戦争と日中戦争を同時にしていた。これでは勝てるはずがない。しかし、日本は降参せず戦い続けた。そのような中で日本には原子爆弾が2発投下された。これにより日本の「敗北」が決まった。

戦争や原爆のことを学んで疑問に思ったことがある。

広島市と長崎市に投下された原子爆弾は、同じ威力なはずなのに、どうして亡くなった人の数が、長崎市より広島市の方が2倍近く多いのかということだ。

答えは地形に隠されていた。

広島市に投下された原子爆弾の周辺には山がなかったため、爆風を遮る物がなく、ほとんどの建物が吹き飛ばされた。しかし、長崎市に投下された原子爆弾の周辺には、多くの山が囲うように連なっていたため、広島市よりも被害が少なかった。

実は、原子爆弾は広島、長崎以外に、京都、小倉（今の福岡）、新潟、この五県を、投下の候補にしていた。他の都道府県（北海道以外）は、空

襲を受け、壊滅していた。

原子爆弾は、爆風だけでなく、熱がすごい。鉄が1500度で溶けるほどの熱をもっていた。中心が3000度と、2倍の熱で被爆すると、火傷で皮ふが垂れさがってしまい、そのまま悲惨な姿で亡くなってしまった人も多くいた。

ぼくは戦争を二度と起こしてはいけない、平和な世の中にしたいと思った。まずその平和な世の中にする、ということより先に、クラスでけんかや、争いのないようにしたいと思った。なぜなら、クラスの仲が悪いのに、平和な世の中にするなんて、到底不可能だと思ったからだ。

ぼくは広島へ行き、被爆者から話を聞き、本川小学校や袋町小学校の資料館などで、多くのことを学ばせてもらった。その学んだことの中からこういうことを思った。「この戦争は大人の身勝手な行動だけで、無関係な多くの大切な命を奪った。人の命は国のためにあるんじゃない。一人一人の命は、国以上の価値がある。その大きな価値を、国のために使うのはもったいない。もっと、自分のために、多くの人のために使うのかは、自分自身が決めることであり、他人に決めてもらうこととは違う。」と思った。

これからは、戦争を体験した被爆者の人たちから声を聞き、聞いたぼくたちが次の世代へ伝えるということを行ってきたい。



平和な世界のために

岩本 正弘

ぼくは、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加してたくさんのごことを勉強することができました。

応募した小さなきっかけは、去年の夏休みに、東村山市の平和のつどいでジブリ映画の上映があったので参加した時に、市長から「来年参加してみたら？」と言われたことでした。

よく行く図書館の前に「被爆石」がモニュメントとして飾られていることを知っていましたが、この石に何があったのか詳しく知りたいと日に日に興味がわき、応募案内を見ることで被爆した広島市内の小学校にも行けることを知り、「同じ小学生のうちに参加した方がいいよ」と親からアドバイスをもらい参加することを決めました。

事前学習や予習である程度は勉強していたつもりでしたが、ぼくが広島に行って体験したことは、言葉にできないくらいの怖さと悲しさがあり、苦しくなりました。広島平和記念資料館で見た、けがを負った人々の写真や絵、原爆ドームで見たがれきなど、74年前の出来事に今も苦しんでいる人たちがたくさんいることを感じるすることができました。

それでも広島市の復興力はとても強くて、原爆が落ちた日から3日後に市内の電車が走り始め、時間がかかっても学校やお店が徐々に復旧したそうで、悲しみや苦しみの中にもくじけない心、負けない心を勉強できました。

また、ぼくは広島派遣事業を通じ2人の子どものことを勉強しました。ひとりは折免滋（おりめんしげ）さんで、13歳の時に被爆して亡くなりました。畑でとれたばかりの野菜を使ったお母さんの作ったお弁当を楽しみに持っていたのに、原爆にあい、弁当箱を抱きしめるような姿のまま亡くなっていたそうで、お母さんが発見してわかったそうです。その時の黒こげになったお弁当は広島平和記念資料館に今も展示されていますが、滋さんの亡くなった姿を見たお母さんの

気持ちを考えると悲しい気持ちになりました。

もう1人は佐々木禎子さんで、2歳の時に被爆したものの異常はなく、11歳の時にはリレーで優勝するなど元気いっぱいだったのに、急に身体が悪くなり原因不明の白血病で1年後には亡くなってしまいました。被爆の後遺症は被爆した時から始まるだけでなく何年も経ってから影響が出てくることを知りました。禎子さんが亡くなった後、友達が力を合わせて平和記念公園に「原爆の子の像」を立てました。平和のために鶴を折ることは禎子さんが残してくれた大切なことだと思います。

戦争がなければ2人とも今でも生きている可能性もあり、戦争がたくさん命をうばっていることを身近に感じるようになってきました。

この活動が終わればいつも通りの生活に戻りますが、ぼくにも大切な友達や家族がいます。ぼくは、戦争で死にたくないですし、大切な人たちを戦争なんかで失いたくありません。ぼくはこの広島派遣で学んだ、命と平和の大切さをクラスみんなに必ず報告します。

これから出来ることとして、予習で市内の朗読会に広島のことを聞きに行った時に、メンバーのかたから「来年はメンバーで参加してみない？」と声をかけてもらいました。こんなぼくでも役に立てることがあるなら、今回の経験を生かせる場として、喜んで参加したいです。

そして8月6日の式典で広島市の小学6年生が話していた言葉、「[ありがとう。]や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもでもできることです」

この言葉を大切に、これからの生活に役立てていきます。

たくさん勉強をさせていただき、本当にありがとうございました。

広島派遣報告

廣田 拓海



広島に行く前は、戦艦が好きなので戦艦が見られると喜んでいました。広島行きの新幹線では、広島で有名な戦艦について考えていました。広島で有名な戦艦といえば日向・武蔵・大和などを思い浮かべていました。しかし広島から帰る時の東京行きの新幹線では、少し心の中が変わっていました。被爆者の体験談を聞くときに、しゃべり出すのが辛そうだったことや、袋町小学校、本川小学校、広島平和記念資料館の展示されているもので変わっていました。

ここからは、広島についての派遣報告をしていきたいと思います。まず最初に気づいたことは、第二次世界大戦の恐怖とトラウマについてです。被爆者のかたは、第二次世界大戦または、戦争の話をする際は必ず、体験していないかたとは、違う目つきをするからです。うらみと憎しみ、そして悲しみが混ざったような目をするからです。広島平和記念資料館には、原子爆弾の仕組みや兵器、第二次世界大戦時に使われていた日用品や第二次世界大戦後に使われていた日用品などが展示されていました。本川小学校では、疎開してきた子ども

たちの伝言がとてつもない量で、残されていました。袋町小学校では、原子爆弾が投下された直後の広島の様子が置かれていてとても忠実に再現されています。

最後に広島に行った感想、そして学んだことについて書きたいと思います。原子爆弾により何人もの方が亡くなられたということを知りました。他には、ケロイドという発汗作用がなくなる、つまり、体温が下がらなくなるけがを負うことを知りました。第二次世界大戦時に比べて、今はとてつもなく平和だということを知りました。今後も平和だいいと思いました。



戦争の悲惨さと平和の大切さ

田邊 歩香



私が、本事業で学べたことは多くありました。しかし、広島県に行く前に事前授業で前もって知りたいと思っていたことについて、一番深く学べたと思います。

私が学びたかったことは、本当の平和です。平和とは何か？人に聞いてみると人それぞれ意見が違います。けれど本当の平和とは、この世界から核兵器がなくなり二度と戦争や争いが起こらないことだと思います。

私はなぜ戦争が起こってしまうのかはじめはわかりませんでした。しかし、被爆したかたの話を知って聞き驚きました。戦争の始まりはなんとけんかだったのです。第二次世界大戦は、国同士の経済のけんかだったそうです。はじめは小さかったけれど、どんどんエスカレートして大きな争いになり戦争が起こりました。戦争の時代は食べ物も少なく、今のような生活はできていませんでした。

広島市に原爆が投下された8時15分には、学校にいる児童が多かったそうです。昔は今と違ってくつ箱が地下にあり、地下にいた人のみ助かったそうです。しかし、やけどをして体が熱く、川に飛び込んで亡くなってしまおう人も少なくなかったと言っていました。

原爆で、座っていた場所に影が映るほどの熱により一瞬で亡くなったかたや、原爆症で何年も苦しんで亡くなったかたもいました。戦争で子どもを亡くした人や、父・母・祖父母・曾祖父母を亡くし、今なお悲しんでいるかたもたくさんいます。

私がもし戦争の時代に生きていて、家族を亡くしていたら、離れ離れになっていたら、そう考えるととても悲しくなります。小さなけんかから始まってしまっているので、私はよく友達や兄弟とけんかをしてしまうので、小さなけんかから大きなけんかにならないように、自分の気持ちをおさえることが大切だと思います。また、他人がけんかをしていて、見ていたとしたら、自分も同じようにやっつけてしまっていると考え、反省しようと思います。

私は、けんかが起こるときは、心にゆとりが無いときだと思います。たとえば学校に行く準備を朝の時間の無いときにやると、イライラして準備をやりたくなるときがあるからです。今の私に出来ることは、他人同士のけんかを止めることと、自分の気持ちをおさえ、あまりけんかを起こさないことです。

私は、今回広島派遣事業に参加して戦争は二度と起こってはいけないと思いました。今の生活を当たり前だと思ってはいけない、平和がとても大切。そう思いました。



平和への歩み

保科 陽香

私が広島派遣事業に参加したきっかけは、母が広島出身で、私の祖母の姉がJR広島駅で被爆した話を聞き、原爆のことについて興味を持つようになり、きちんと学習したいと考えたからです。

広島派遣事業に行く前にも、何度か広島に行ったことがありましたが、広島と言われて思い浮かぶものは、もみじ饅頭や宮島などの食べ物や観光地と、穏やかでとてもんびりとした所、というぼんやりとした印象でした。原爆ドームや広島平和記念資料館にも、何度か行ったことがありましたが、原爆のことについて学び、平和について深く考えたことはあまりありませんでした。

そんな私が、広島派遣事業に参加したことで得た成果は、大きく3つあります。まず1つ目は、事前学習で戦争について学習する中で、被爆者一人一人に対する見方やとらえ方が大きく変わったことです。これまでは、広島平和記念資料館に行って原爆で亡くなった方々の遺影を見ても、ただ「そうなんだ」と、思うだけでした。しかし、今回改めて資料館に展示されている物を見学すると、被爆した方々が、どんなに原爆の被害で苦しんで死んでいったか、また、「もっと生きたかった」という強い思いをもっていたかが、痛いほどわかりました。これまでよりももっと、一人一人の悲しみや苦しみを受け取ることができるようになったのです。広島派遣事業で行く前の、のんびりとしたイメージがあった広島に、とてもつらく、暗い過去があったということがよくわかりました。

2つ目の成果は、佐々木禎子さんの一生を知り、その生き方に感銘を受けたことです。そして、原爆の子の像で知られる佐々木禎子さんを通して、最後まであきらめないで希望を捨てずに生きることの大切さを学びました。彼女はどんなにつらく、苦しい時でも、生きる希望を持って明るく、元気に振る舞いました。彼女が私たちに教えてくれたものは、毎日健康で当たり前の暮らしができることのありがたさ、どんなにつらくても、夢や希望

を持ち続けることの大切さだと思います。彼女は自分の病気が治ることを願って千羽鶴を折っていました。しかし、その願いは叶わず、彼女は12歳という若さで亡くなってしまいました。彼女の悲劇を伝え、それを忘れないようにするために、彼女の折った折り鶴は世界平和のシンボルになったのだと思います。だから、原爆の子の像が折り鶴を手を持っているのだと思います。

3つ目の成果は、私一人の力で世界平和を実現することは難しいけれど、自分の身の周りを平和にしていくことが世の中の平和につながるのではないかと考えるようになったことです。被爆者の講話の中で平野貞男さんはこう語っていました。「勝ち負けを競い合い、傷つけ合うよりも、人にされていやなことは人にしない、人にされて嬉しいことを人にする。そういうことを基本として平和な世の中を作っていかなければいけない」と。私はこの話を聞いている時、自分の身の周りの平和について考えました。私のクラスでは、相手の悪口を言って、相手を傷つけたり傷つけられたりするようなことが起こっています。私がこのクラスに必要なと思うことは、自分が言いたいことを相手にぶつけるのではなく、相手の話をよく聞いて、自分が言いたいことはしっかりと相手に伝える。相手を理解し、対話を通して相手と良い関係をつくろうと努力し続けることが、身の周りに起こる問題を解決する方法となり、平和につながっていくと思います。

私はこの広島派遣事業に参加して、たくさんのことを学ぶことができました。それは、人の気持ちに寄りそうことの大切さ、最後まで希望を捨てずに生きることの素晴らしさ、相手のことを理解しようとする広い心をもつことの必要性です。生きていく上でとても大切なことを学ぶことができました。私はこれから、広島派遣事業で学んだことを学校や日々の生活の中で生かしていきたいです。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

平和学習で心に残ったこと

深川 直

ぼくは広島に戦争について学びに行きました。広島に行く前に地域の戦争について学びました。そこで旧日立航空機株式会社変電所が心に残りました。なぜかというと、すごい数の銃弾の跡が今でも壁一面に残っていて、戦争の激しさが想像できてすごく怖かったからです。ここでは、働いている人や家族など合わせて111人の命が失われたそうです。

広島では3日間いろいろな物を見たりいろいろな人の話を聞きました。その中でも心に残ったのは3つあります。1つ目は、平和記念式典に出席したことです。式典は、安倍総理も来ていてとても大切な行事だと思いました。ぼくは、黙とうの時に、これからの平和について考えました。最後の方で白い鳩が一斉に空に向けて飛び立ったのはとてもきれいでした。年に一度の大切な行事に参加できてとてもうれしかったです。これからも戦争を忘れないために、この式典が続いてくといいと思いました。

2つ目は原爆ドームを見学したことです。原爆ドームは、もともと広島県物産陳列館として建てられました。原爆が投下された後もその姿のまま現在も残っている建物です。写真で見るよりも迫力がありました。

原爆が投下された後、広島の人々が水を求めて川に飛び込み亡くなったそうです。この話を聞いてぼくは、熱くて苦しみながら亡くなったのは、とてもかわいそうだなと思いました。想像するだけで怖いです。

3つ目は、広島平和記念資料館を見学したことです。資料館では、楽しみにしていたけど食べられないまま亡くなってしまった滋くんのまっ黒なお弁当や、犠牲になった人々の洋服が破れたり血がついたまま展示されていました。それを見て、

食べられないまま亡くなってしまったり、服が肌にくっついてはさみで切りとらなくてはならなくなってしまうことがとてもかわいそうだなと思いました。当時の実物がそのままの状態で見ることができたので、被害の大きさをもっと想像することができました。

広島での学習を通してぼくが思うことは、この平和を守っていかなければいけないということです。広島で、小さな平和を作れなくて大きな平和を作れないという話を聞きました。ぼくもそうだなと思ったので、ありがとうやごめんねなどのあいさつを日ごろからきちんと言うように心がけたいです。そうすることで小さな争いがなくなり少しずつ大きな平和に近づけたらいいと思います。



7

参加者アンケート

アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者20人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

アンケートの結果

*回答者数は、複数回答したかたがいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位: 人)

平和を学習したいから	9
広島に行きたいから	1
親に薦められたから	7
友人に誘われたから	1
その他	2

●祖父が広島出身で、どのような歴史があるのか知りたかったから ほか

実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は (単位: 人)

広島被爆者体験講話聴講	1
平和記念式典	4
袋町小学校平和資料館	0
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	9
とうろう流し	2
広島平和記念資料館	1
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	2
原爆の子の像	1
その他	0

実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は (単位: 人)

広島被爆者体験講話聴講	2
平和記念式典	5
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	2
とうろう流し	1
広島平和記念資料館	5
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	2
原爆の子の像	1
その他	1 (平和の灯)

実施前は、テレビなどのメディアでも目にしたことが多かったと思われる原爆ドームへの関心が強かったようです。実施後は、広島平和記念資料館のポイントが上がっています。被爆当時の状況や被爆されたかたの遺品の展示を目の当たりにし、参加者たちにとって心を打たれる体験となったと思われます。

実施前 事業に対する意見など

広島に行くのが楽しみです。戦争について学びたいです。

熱中症に気をつけようと思います。

今回平和学習を学べる機会があったことにより、戦争についてより知りたいと思いました。広島原爆について学びたいと思いました。機会をくださってありがとうございました。

この事業を通して、平和を守りぬくことの大切さをより深く知りたい。

実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何か

厳島神社の大鳥居・原爆ドーム	広島カーブ・原爆	広島カーブ・お好み焼き・オバマ大統領・原爆ドーム	原爆	戦争・原爆ドーム・広島カーブ・お好み焼き・中国地方・もみじまんじゅう
原爆ドーム・もみじまんじゅう・ちくわ	広島カーブ・もみじまんじゅう・原爆ドーム	8/6に原爆が落とされた	原爆の子の像・原爆ドーム・もみじまんじゅう	
東京よりも気温が高く過ごしにくそう。カキを養殖していて代表的な水産物である。戦争に関する建物が多し・とうろく流しが有名・地方都市で高層ビルが建っている	お好み焼き・広島カーブ	お好み焼き・広島カーブ・もみじ饅頭・オオサンショウウオ・厳島神社・かき・路面電車・オタフクソース		
	原爆ドームなどの戦争の跡地。オバマ前大統領が、追悼を目的とし初めて来日した地。	折り鶴・平和の子の像	原爆の像・広島平和記念公園・お好み焼き	
広島カーブ・爆心地・原爆ドーム・黒田・厳島神社・広島風お好み焼き	原爆ドームがある・戦争・リトル・ボーイ・広島カーブ・お好み焼き・暑い・爆心地・放射線・平和記念公園・とうろく流し			
まず最初に思い浮かぶものはやはり原爆ドームです。原爆で一面焼け野原になってしまった広島でただ1つ残った建物は印象的です。2つ目は原爆の子の像です。佐々木禎子さんの「生きたい」という思いや、原爆で亡くなった人たちの命、平和の尊さを感じます。広島イメージは、原爆で焼け野原からスタートして復興した「平和の大都市」。そして、夏は本当に暑く、お好み焼きや広島カーブ、和菓子はもみじまんじゅうなどで、とても楽しく、明るいイメージです。			大切な場所・平和の象徴・原子爆弾・禎子さん（折り鶴）	
			お好み焼き・原爆・広島カーブ	

実施後 実際に行った後の広島のイメージ

広島の悲惨さを学んだつもりだったが、広島に行ってみると、もっと悲惨な過去があったことを感じた。	あんな一瞬でたくさんの方が亡くなり建物が壊れて、街が無くなって恐ろしいと思った。	大きいビルが多い（東京みたい）。路面電車が多い。広島お好み焼きの店が多い。		
自分が思っていた広島は原爆が落ちてたくさんの方が亡くなった所としか思っていなかったが、実際に行くと、原爆の本当の恐ろしさがあったと思います。広島は原爆の被害は予想以上で、皮膚が焼けた人、黒こげになった人、白血病になった人など多くの人が苦しむ思いをしたことが、広島に行くとよく分かりました。	原爆が落ちてたくさんの方が犠牲になってしまった所	爆弾の威力がすごいと思った	お好み焼きがあるんだと思いました。	すごい。復興が早い。
	広島は、資料館を残して、また、思ったよりビルやホテル、店が多かったです。	広島といえばカーブでキャラクターがかわいいと思っていましたが、資料館に行って写真を撮るのが怖いと思いました。	広島は「復興」の大都市だと思います。原爆の大きな被害を受けたのに、あんなにきれいに復興しているのはすごいと思います。	
広島市は、人も多く、ビルが多く建っているようなイメージだったが、今回行って商店街や住宅などが多く、小規模な建物が多かったところがとても驚いた。戦争の遺跡は他の地域と違って多く、初めて行って見学したところも多くあり、いろいろなことを知ることができた。	被爆してから今も多くの人が差別されているなんて知らなかった。政府は差別をなくしたいと言っているだけで、結局はあまり行動にうつさない。政府は自分たちのことや東京2020のことで何もしない。さすがにもっとすごひどいと思った。	広島に行く前は原爆がどのようなものかあまりわかりませんが、行った後は原爆の恐ろしさがわかりました。		
私はお好み焼きやカーブのイメージがすごかったです。実際行ってみて、お好み焼きはとてもおいしかったしカーブも人気だと思った。でもやっぱり戦争についてはとてもたくさんを知った。広島に行ってみてすごく戦争が怖いことをあらためて感じました。ガイドの土屋さんの説明はすごくわかりやすかったしとてもいい人だと思いました！	広島市の中心は浮島のようになっていて、地形として面白い型だと感じて、74年前の広島はどのようなものだったのかを知りたいと感じたこと、川、海などの水に関するものが多く伊勢艦隊などがどのように動いていたのかをさらに考えるようになった。	今の街の様子からでも、戦争に関するものがたくさんあったので、よくわかりました。	広島は、今後の世代に戦争の悲惨さを伝える一つの場所だと思います。平和を考えてもらう絶好の場所です。	

実施前 平和とは何だと思うか

うれしいこと。けんかがないこと。争いがなく、怒られないこと。食事があること。学校に通えること。ふとんで寝られること。安全で暮らすこと。家があること。飲み物があること。お金があること。

- 争いがなく、人々が協力し、助け合い、思い合い、笑顔があふれている環境
- 誰もが豊かに暮らし、平等であり、動物であっても、殺し合わず、誰もが幸せをもつこと
- 出身地や、白人か黒人か、どんなふうにも生まれたのか関係なく交流し合う社会

1人1人がルールを守ろうとする気持ち

人々が生活ができていくこと

軍事的な事には手を出さず、国内でも犯罪もほとんど無いこと

- みんな仲よく生活する
- 協力する
- 命を大切にすること

だれもが、安全に暮らせること。

核兵器がないこと。今。

争いと、差別のない社会。みんなが平等に暮らせる。

人々が毎日豊かに、争い事が少なく、楽しく幸せに暮らしていること

核兵器がなくなり国連に加入していない全ての国が加入すること

戦争が起きると人命の尊さや人々の悲しみや願いが消えてなくなってしまうと思う。戦争の悲惨さを次代に伝え、平和意識を高めていきたい。身近な地域でどのようなことが起こったのかを知り、友達や先生に伝えていきたい。

皆が笑顔で仲良くすること(どの国とも)争いごとがないこと

- 戦争をしない
- 笑えること
- けんかがない
- パトカーの音がしない
- 家族が全員いること

楽しい、幸せ、当たり前前の事が当たり前に見える。争いがなく。

- 人と人が協力しあうこと
- 争いをしないということ

- 戦争と争いのない社会。
- 差別がない。

争いがなく、気持ちいいこと

みんなが安心して安全に暮らせること。仲良くすること。争いのない世の中。

私が思う平和とは、戦争や広島、長崎のような多くの人達の命が奪われるような、みにくい争いが無い世界を平和というのだと思います。人と人が殺し合うことは、あってはならないことです。でもそれ以上に「人」を巻き込む争いは絶対にしてはいけないと思います。自分達で勝手に起こした争いに「何もしていない人」を巻き込み、命を無駄にする。そんなことは、あってはいけないのです。「何もしていない人」はその勝手な人に命を無駄にされるために生きているのではないのです。平和とは、人のことを考え、自分勝手なことをしないと心から生まれていくものだと思います。

実施後 平和とは何だと思えますか。

日本や他の国などで戦争が起こらないことが1つで、もう1つが一人一人がまず人に優しくすることだと私は思います。差別などをしないでほしいです。

平和とは争いが無い世界。

仲良くすること

世界中のみんなが仲良くすること。今の自分達。

誰もが、自由に暮らせる事

今、または、核兵器がなくなった時

核兵器がなくなり、ミサイルなどが飛び交うことがないこと。

核が消え国連に加入し、国連が積極的に動くこと

私は、平和とは、核なき世界であり争いのない世界であり、人と人、国と国、動物と人など、境界を関係なく、互いに認め合い、思いやりのあふれる、優しく輝く雰囲気だと思えます。

平和とは、戦争がなく、人々が幸せに生活できること。

- 今の世界から核兵器がなくなり二度と戦争が起こらないことです。
- けんかが起こらないことです。
- 今の生活が出来ることです。

みんなが傷つかない、手を取りあうこと。

お互いを理解し合うことが平和だと思います。みんなが愛する国が平和なのだと思います。

戦争がなくみんなが協力する世界

夜眠りにつく時に明日が待ち遠しいと思えること。

- 争いのない平等な社会
- 差別がない

当たり前のことが当たり前で、争いがなく、笑顔が絶えない世界。

実施前には、漠然としていた平和についてのイメージが、実施後には、より真に迫った言葉で表されており、戦争の恐ろしさや核兵器のむごさを肌で感じた結果のように思います。家族や友人と楽しく過ごせる今の状況が平和だと、ありがたく感じられるようになったことがわかります。

実施前 本事業で何を学び、何を得たいか

(単位:人)

戦争の悲惨さ	14
命の大切さ	18
平和を守ることの重要性	14
自分の目で見て感じることの重要性	8
同世代の参加者との意見交換による気づき	5
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	5
その他	2

- 平和のために自分のできること
- 被害を受けた人、人々の思い

本事業の実施前に、参加者に「何を学び、何を得たいか」を聞き、実施後に「何を学び、何を得たか」を自由に記入してもらいました。これから自分たちがどんな行動をしていけばよいのかについて触れた意見もあり、客観的な意見から、主体性を持った意見が増えています。身近な地域の戦争について学び、また、実際に広島で見聞した体験により、多くの気づきを得たことがうかがえます。次世代を担う小・中学生にとって、実りの多い事業となりました。

実施後 本事業で何を学び、何を得たか

戦争はどんなものだったのか、原爆が落ちた後どうなったのかを知ることができました。

平和の大切さ。そして平和のためにすることは何か。実際に、級友の会話を気にすることなど。

戦争は絶対にやってはいけないということを学び、広島原爆についてたくさん知ることができた。

被爆者は今後減少してゆき、戦争の現状について知る機会が減っているの、僕達が風化させず、次世代へ語り継いでいかなければいけないことだと感じた。戦争の悲惨さや命の尊さについて学び、これを知らずにいると、平和は訪れないと感じた。

平和の尊さを学び、人前に立って発表する勇気を得た。

命の尊さを学び平和の大切さを得ました。

命の尊さ。自分の命を大切に。平和を大事にし、大切に生きて行くこと。

私は、命の尊さと平和の大切さを学び、今を生きている間にどのようにして生きるのか、何のために生まれてきたのかというものを考えました。人は、賢いけど、間違えたことをすると愚かになると知って、正しいものを世に示していかなければいけないと思いました。また、被爆者から、希望をもって生きることを教えて頂きました。

まずは私がみんなに優しくしよう！と思いました。自分がたくさん怒っていたら楽しい時間も楽しくなくなってしまうと思うので、まずマイナスな気持ちをなくすようにしたいです。

戦争とは、一瞬で多くの人の命を奪ってしまう恐ろしいものと学びました。戦争はくり返してはいけない、今平和なのはありがたいことだということ。

平和の大切さ
戦争を起こしてはいけない

爆弾の威力

広島の特産物・広島
の地形・広島歴史

原爆のことや、戦争のことを学び平和についての知識を得た。

戦争の事について学び、命の大切さを得ました。

原爆のおそろしさ
と被爆者の想い。

戦争の悲惨さを
学び、知識を得た。

原爆がもたらした
悲劇を知りました。

人を理解する心、最後まであきらめず希望を持ち続けることを学びました。

戦争の悲惨さと平和の大切さを学び、戦争は二度と起こってはいけないと思いました。多くの人が死んでほしくない。なぜなら家族の人たちが目の前で殺されたりすると心が苦しくなるからです。

実施後 本事業に参加した感想をお書きください。

学校や学年を超えた友達が出来た。とても楽しく学べた。お好み焼きがおいしかった。

たくさんのことを学べました。原爆、戦争、友達関係、広島、広島の郷土料理のことを学べた良い勉強になりました。ありがとうございました。

最初は言われて応募したが、実際に行って式典に出られたり、今少なくなっている被爆者にも話を聞き、広島原爆についてたくさんを知れたのでとてもいい機会だったと思います。僕はグループリーダーもやったので人をまとめる力が少しついたと思います。

戦争はいけないと思いました。

最初は何をするのか分からなかったけど、平和記念資料館に行き、まだ行方不明者がいること、疎開に行かなかった学生が多く亡くなったこともわかり、悲しくなりました。

広島式典に参加できてよかった。

参加してよかった。

戦争は本当に怖いと思った

- 本当の平和とは何かについて学べてよかったです。
- 広島名物のお好み焼きも食べることができ、うれしかった。
- とうろうを作って流すこともできてとても楽しかった。

この事業に参加して、平和の重要性を感じられて良かったと思います。希少な体験を有り難う御座いました。

身近なことから、広島のことまで、すみからすみまで知れるのでびっくりしました。

戦争の脅威にさらされていることの事実を知らない人にも広め、歴史をより学ぶことの大切さについて知ることが出来た。

貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。

戦争についてしっかり学ぶことができました。友達もできたので良かったです。

原爆をあげたいいろいろな物を見ることができてよかった

楽しかった。広島がどのような地形、建物などの物がわかったこと

被爆者の声を聞いたり、多くの、普通に生きていたら体験できないような貴重なことを学べてもらって、本当にうれしく思います。

最初はすごく不安でしたがみんなとても優しくとてもよかったです。とても貴重な思い出ができました。もう戦争はしてはいけないと思って、私に何が出来るのかを考えました。とにかく人に優しく楽しくいきたいです！つらいこともりこえたい。資料館もたくさんの人たちに行ってもらいたいです。みんなが優しくなってほしいです。広島に原爆が落ちた一番わかる場所は原爆ドームです。その日何百、それ以上の人が亡くなりとても悲しいと思いました。

私は、本事業に参加し、恐ろしいから二度としてはならない戦争を目をそむけず伝えていくことの大切さを学びました。私は、参加できていなければ、ただ8月6日は原爆が投下された日と思い続けていたと思います。今思うと、前の私のような考えの人が多くいるからこそ、争いがあり、平和がないのだと思います。だから私は、学んだことを伝えていこうと思いました。初めて会う子たちと仲良くなったこと、話し合えたことは、私にとって勇気となりました。この事業に参加できなかったかたのことも考え、スタッフのかたの協力にも感謝して、学んだことを伝えていきます。

実施後 今後、戦争・平和学習として実施してほしい事業、訪問してみたい場所など

長崎に落とされた原爆のことも知りたいです。

長崎にも行って広島との原爆の違いを確かめたいです。

- 沖縄 - 本土での唯一の戦い場。
- 長崎 - 同じ核を落とされているから。

- 長崎にも行ってみたい。
- 平和のつどいのお手伝い。

東京大空襲について知りたい。また広島で行った場所すべてにもう1度行きたいです。福島原爆について知りたいです。

平和学習の一環として、複数の経験者のかたの意見を聞きたいなと思いました。

- 長崎（第2原爆投下場所）。
- 沖縄（沖縄戦）。

長崎県に行ってみたいです。

美術館（あったら）

- 沖縄
- 長崎

長崎県へ訪問してみたい。

長崎、京都

長崎

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

東村山市

核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都 東村山市

令和元年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書

令和元年12月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市社会教育部社会教育課

東京都東大和市中央3-930

電話 042-563-2111 (内線1555)

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町1-2-3

電話 042-393-5111 (内線2558)

